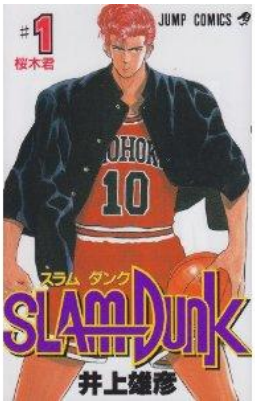
リレーエッセイ　第9回

川上　公一

本を読むのは好きです。困ったことにそれ以上に本を買うのが好きなのです。ついつい衝動買いしてしまいます。若い頃から、買いためてきた本がたくさんあります。年をとって時間の余裕ができたら、晴耕雨読だと思っていたのですが、なんと老眼になると小さい活字が読めなくなるとは思いませんでした。困ったものです。

今、手元にあるのは、「若者の取扱説明書(斉藤孝)」「貧困連鎖(橋本健二)」「オレたち花のバブル組(池井戸潤)」「論語と算盤(渋沢栄一)」「「予想」で変わる数学の授業(相馬　一彦)」「文部科学省(寺脇研)」「ザ・タイガース世界はボクらを待っていた(磯前純一)」「岡山の山百選(福田明夫)」「新しいタイプの公立学校(黒崎勲)」・・・種々雑多な本が手元にあると気が休まるのです。

どうも、高校生向けの本は少ないようです。そこで、これまで読んだ本の中で、「是非２０歳になるまでに読むといいよ」というものを３つ挙げておきます。



SLAM DUNK 1-31

井上　雄彦／集英社

人生で大切なことは、
みんなスラムダンクに書いてある。

バスケットでは万年弱小の湘北高校が念願の県予選を突破し、インターハイで王者・山王工業に勝利するまでの軌跡を描いた漫画「スラムダンク」。

バスケット未経験の桜木花道。キャプテン赤木・流川・三井・宮城・小暮。監督安西先生。湘北の前に立ちふさがるライバルたち。

たくさんの名言が、困ったとき悩んだときの力強い味方になります。

たとえば…

大人になれよ…三井…！！（小暮公延／湘北）
あきらめたらそこで試合終了ですよ。（安西先生／湘北）
「負けたことがある」というのが、いつか大きな財産になる（堂本監督／山王）
オヤジの栄光時代はいつだよ…全日本のときか？オレは…オレは今なんだよ！！
（桜木花道／湘北）

博士の愛した数式
小川　洋子／新潮文庫

世界は驚きと歓びに満ちていると、博士はたった一つの数式で示した――。

記憶を失った天才数学者と幼い息子を抱えて働く「私」の出会いと幸福な一年。80 分しか記憶の持たない天才数学者と家政婦とその子供「ルート」の物語。

博士をとおして語られる素数や完全数といった問題とその解説は、たまらないほど温かい。

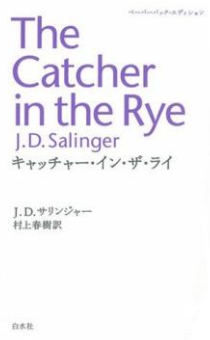
たとえば「友愛数」の解説。

「私」の誕生日「220」（2 月 20 日）と博士の腕時計に刻まれている「284」という 2 つの数字。

それぞれの数の約数の和が、もう 1 つの数字になるという数少ない「友愛数」を博士は「友愛数は神の計らいを付けた絆で結ばれ合った数字」と説明してくれる

1+2+4+5+10+11+22+44+55+110=284　　1+2+4+71+142=220

感動したい時、やさしい気持ちになりたい時にぜひおすすめの一冊です。



キャッチャー・イン・ザ・ライ
J.D.Salinger 著　村上春樹訳
／白水社

大戦後間もなくのアメリカを舞台に、「僕」ホールデン・コールフィールドが成績不振で高校を退学させられ、寮を飛び出し、実家に帰るまでニューヨークを放浪する 3 日間の話。すべての物事に不満を持ち、友人と言い争い、デートの相手をこきおろす。そして一人でしゃべりまくる。

ホールデンは終始一貫して成長しない。むしろ成長を拒絶している。ホールデンは周囲のインチキを唾棄する。しかし、彼は、「志は高くて、行動は滑稽になる」アンチヒーローなのである。

おまけ

本を読むのも好きなのですが、文章を書くのも嫌いではありません。若いころ、一生の内に一冊は本を出版してみたいと思っていましたが、どうにか達成できました。

校長先生、ありがとうございました！